

スプレーギクの再電照による品質向上技術

北東北のスプレーギク栽培では、自然日長が12時間以下となる時期に電照を終了する作型（11～12月出し）で花梗や側枝長が短く上位葉も小さくなり品質が低下（うらごけ）しやすいが、電照終了後のスプレーギクを再電照することにより、花穂部の品質向上が可能となる。

表1 再電照が11～12月出しスプレーギクの切り花品質に及ぼす影響

処理時期等	到花 日数 (日)	草丈 (cm)	有効花 蕾数 (個)	花梗 長 (cm)	側枝 長 (cm)	花房型 ¹⁾ 割合(%)			貫生花 割合 (%)	止め 葉長 (cm)
						A	B	C		
無処理	54	95.7	28.1	2.4	9.0	0	100	0	0	3.2
総包形成期	60	105.8	17.2	4.3	9.4	0	100	0	24	3.6
小花形成期	60	108.7	20.7	3.5	10.8	0	100	0	0	3.6
小花形成期+22日	63	121.2	16.7	6.9	12.8	0	100	0	20	5.0

品種：ロイヤルウエディング

定植時期：8月28日 適心時期：8月31日 初期電照期間：8月28日～10月5日

総包形成期：終了後9日目から5日間4時間の光中断電照

小花形成期：終了後13日目から5日間4時間の光中断電照

小花形成期+22日：終了後13日目から5日間、再度22日目から3日間4時間の光中断電照

花房型¹⁾： A；凸型 B；平 C；平～凹型

再電照により草丈、花梗長、側枝長が伸長し、かつ上部葉が大きくなり、花穂部の品質向上が図られる。



花房型の品質低下の少ない再電照開始時期は小花形成期であり、小花形成期に到達する期間は電照終了後、12日程度である。

再電照は、電照終了後12日間自然日長とし、その後5日間、午後10時～午前2時までの4時間点灯することにより行う。

2区（左）：総包形成期再電照開始

3区（右）：小花形成期再電照開始

写真1 「ロイヤルウエディング」採花時品質